欧米文化Ⅱ－Ⅰ

科目ナンバリング　EUL-103
【Ⅲ】　選択　2単位

1. 授業の概要（ねらい）

近代以降、ヨーロッパの文化・技術は地球規模で決定的な影響を与えるようになった。しかし、他方では、ヨーロッパ人に他民族・他人種に対する優越意識もうまれた。それは「ヨーロッパ中心主義」として現在しばしば批判の的となっている。本講義もまた「ヨーロッパ中心主義」から解放された、地球上の諸文明に対して相対化されたヨーロッパ像を探求する。

「ヨーロッパとは何か?」という問いを経糸に、古代から近世初期まで各時代の特徴ある文化を取り上げていく。扱う素材は様々だが、ヨーロッパ（文化）を構成するとされる3つの要素、すなわち〈グレコ＝ローマン〉、〈キリスト教〉、〈ゲルマン・スラヴ〉といった要素がヨーロッパの個性形成にどのように働いていったかを考察する。

2. 授業の到達目標

1.ヨーロッパ文化の構成要素が説明できるようにする。
2.ヨーロッパの基底文化を理解し、ヨーロッパの古典文化を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

最後の授業時に筆記試験を行います。最終回に近い時期に試験の様態について解説をしますので、出席するようにしてください。期末テスト(80%)、小レポート(20%)

4. 教科書・参考文献

参考文献
『民族の世界史（8）ヨーロッパ文明の原型』　（山川出版社）

5. 準備学修の内容

いくつかのテーマ群になっていますから、関心に応じて紹介した文献に必ず当たるようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

通史を行うものではありません。高校世界史の教科書や参考書を越えた、常に参照できる通史的な概説書などが手元にあるとよい。

7. 授業内容

【第1回】　講義に向けてのオリエンテーション。
【第2回】　ヨーロッパの神話世界（1）：ヨーロッパ生成神話としてのエウロペの略奪について学ぶ
【第3回】　ヨーロッパの神話世界（2）：神話学はヨーロッパの基底文化をどうとらえているかを学ぶ
【第4回】　民族移動のもたらしたヨーロッパの基層文化の形成について学ぶ
【第5回】　ローマの創建神話について学ぶ
【第6回】　『アエネーイス』：新トロイアとしてのローマの建国について学ぶ
【第7回】　ヨーロッパ諸民族の形成：ヨーロッパの民族と言語について学ぶ
【第8回】　ケルト周縁：ヨーロッパの基層文化としてのケルト世界について学ぶ
【第9回】　「騎士ローラン、ロンスヴォー峠に死す：ヨーロッパの観念の成立にイスラームが触媒となったことを学ぶ
【第10回】　「ハーメルンの笛吹き男」：中世の社会史というテーマについて学ぶ
【第11回】　「騎士ヴァルターはドイツを歌う」：ナショナリズム以前の国民の生成ということについて学ぶ
【第12回】　スラヴ世界の形成：ヨーロッパの西と東について学ぶ
【第13回】　ルネサンスについて学ぶ
【第14回】　教派形成：ヨーロッパのキリスト教会について学ぶ
【第15回】　近代以前のヨーロッパ文化についてまとめを行ない、試験